



# ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 283  
October  
2016

## トピックス

### ADRC客員研究員 レポート

† アカデラル ロリーン シア (フィリピン)

† スシルアストウティ (インドネシア)

† シュザンナ カコヤン (アルメニア)

### インターンレポート

† 中島亜太瑠

## ●ADRC客員研究員レポート

### アカデラル ロリーン シア (フィリピン)

マブハイ！ (フィリピンのこんにちは) 私はフィリピン国防市民防衛局 (OCD) のロリーンと申します。

まず、私が働いているOCDについて紹介します。

OCDの国防部長官は国家災害リスク軽減管理評議会

(NDRRMC) の議長で、またOCDはNDRRMCの実施

と事務局として、フィリピンの包括的な国家市民防衛と

災害リスク軽減及び管理 (DRRM) プログラムを推進・管理しています。

2020年までにDRRMの中心的役割を担うことを目指しています。

現在、私はブタン市 (Butuan) にあるカラガ地域センターに勤務しています。この地域は5つの郡と1中核都市、5つの都市、67自治体と1,310のバラングイという小さな地方自治から構成されています。

2001年以降、本地域センターで私は業務管理及び技術面で経験を積むとともに、防災分野の広範な技術研修を受けてきました。これにより、私は地域防災協議会 (RDRRMC) と技術作業部会及びGawad KALASAGの地域選定委員会の担当者として任命されています。このように、私はOCD提供の様々な防災能力構築活動や研修プログラムの実施にあたり、ローカル防災協議会 (LDRRMCs) やRDRRMCの構成者と密接に働いています。私の業務のひとつは、カラガ地域における防災能力向上活動や研修や防災関連計画策定の技術支援やリソースを提供することです。

最後に、日本における防災分野の優良事例や発明を学ぶ機会を与えてくれたアジア防災センター (ADRC) と日本政府に心から感謝します。客員研究員として日本で多くの防災関係情報に接することができること、そして日々の生き方が災害予防の中核となっていることを垣間見られることに、大変嬉しく思います。日本の国と国民の防災に取り組む姿勢はフィリピンだけでなく世界中に国の手本となると思います。

私の研究活動が、ADRCやフィリピンOCDへの貢献として、少しでも役立ち、フィリピンにおけるコミュニティ活動の促進に向けて、有益な一歩となることを願います。



## Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通  
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540  
Fax: 078-262-5546  
editor@adrc.asia  
http://www.adrc.asia

© ADRC 2016

## スシルアストウティ (インドネシア)

私は、インドネシアから来ましたスシルアストウティと申します。インドネシアは、複数の大陸にまたがる主権国家で、オセアニアにいくつかの領土を有し、主に東南アジア地域に位置しています。

2016年9月現在の推計人口は、およそ2億6千万人余りです。地理的には、インドネシアは赤道上にあり、インド・オーストラリア、ヨーロッパと太平洋プレートの三つの地殻の接合点に位置しており、定期的に、地震、津波、地すべり、火山噴火、洪水、そして干ばつなど、世界中で最も災害が多発する国のひとつとなっています。

私は、防災啓発担当官として、国家災害管理局 (BNPB) に勤務してい

## 続き

ます。BNPBの成り立ちは、20世紀の壊滅的なインド洋地震のような自然災害までの独立時代での防災の発展と切り離せない関係にあります。一方、こうした発展は、そのときどきの状況や報道、災害管理の認識体系若しくは方法論の変遷からも大きな影響を受けてきました。昨今の状況から、地理的、地質、水文、および人口統計学的条件によって引き起こされるさまざまな災害は、それに対処すべき国家の強靱化を図るために方針を確立するようインドネシアを鼓舞してきました。

以前、私はNGOで働いていました。そこでは、地域のまとめ役として、心のケアを担当するスタッフとして活動してきた経験を持っています。それはYEU (YAKKUM 緊急単位) と言いますが、災害時の緊急応答に焦点をあてた内容で、人道上の危機や防災への取り組みを進めるプログラムです。また、私はキリスト教系の支援機関であるCWS (Church World Service) という所での業務経験があり、インドネシアにおいて、都市難民と非保護者の地位向上プログラムを通じて彼らを保護するため、ソーシャルワーカーとして参加していました。

ADRCの客員研究員プログラムは、当該機関の活動や日本の防災におけるよりよい実践を通じて、多くの経験を得る機会を提供してくれます。2016年度の客員研究員であることは、私の名誉であると思います。このプログラムは、防災に関する私の技術や知識を豊富にさせてくれる機会を提供します。この活動は、私と私の国、とりわけ国家災害管理局に、確かな果実をもたらします。最後に、日本政府、ADRCの職員の皆様など、私の日本滞在中にご支持とご支援をくださった皆様に対して、そしてまた、私にこのような実り多い機会を与えてくれたBNPBに対して、心から感謝の意を表したいと思います。テレマカシ！



## シュザンナ カコヤン (アルメニア)

はじめまして。私はアルメニアの非常事態省から来ましたシュザンナ・カコヤンと申します。私の国アルメニアはコーカサス地域の北西に位置する多くの山に囲まれた国です。1998年12月7日に発生したスピタク地震は歴史的にも大規模な災害で、25000人以上の人がこの災害によって亡くなりました。

これら災害からの被害を抑制させるために、防災教育と人材開発に関する活動は、私が所属する非常事態省に於いて重要な活動となっています。私個人としては、非常事態省の西部地震保護で働いていて、社会心理部主席専門家として活動に従事しています。特に、一般の市民を対象とした防災教育活動、社会心理に関する研究、地震発生前の災害対策としての正しい知識の普及活動などを行っています。

アルメニアはまだ発展途中の段階で、日々進歩している世界の専門的技術から多くを学んで今後、継続的に発展していくと思います。ADRCに客員研究員として滞在している間、アルメニアの発展に寄与するために、防災に係る様々な活動を経験したいと考えています。

ADRCで学ぶことについては、きっと防災教育や新たなアプローチへの刺激など、私の知識や経験をさらに満たす助けになると思います。母国であるアルメニアに対しても、人材開発や教育の分野において、新たな方法論や知見を見いだせると期待しています。



## ●インターンレポート

### ADRC インターンシップ (中島亜太瑠さん)

初めまして。関西大学社会安全学部2年生の中島亜太瑠と申します。社会安全学部は、安全・安心な社会に貢献する人材を育成することを目的とした学部です。私も含め、学部生は地震学、心理学、企業法学といった様々な学問分野から安心・安全を学びます。私は海外の自然災害リス

## 続き

クや災害を扱う企業について興味があったので、経営学、保険学を中心に勉強しています。ですので、ADRCでのインターンシップに参加できたことを大変うれしく思います。

今回のインターンシップでは、ADRC来訪者への説明資料の更新作業やニュースレターの作成、さらには、国際フロンティア産業メッセや津波・高潮ステーションの見学、をさせていただきました。業務や産業メッセでの見学を通じて働くことに対するイメージが得られ、防災施設の見学によって、災害の恐ろしさを改めて知ることができました。また短い期間ながらも職員、VRの方々と交流でき、非常に充実した5日間でした。今後、インターンシップでの経験を活かし、社会に役立てる努力を重ねていきたいと思えます。

最後になりますが、このような機会を与えてくださったADRCおよび関西大学に心より感謝いたします。



### 問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。